

また瘰疽の薬には、みかんのたねを黒焼にして、のりにませ付る。此薬のどけには管を以咽に吹入るべし。また産後の水氣あるにはとへらの木右の手一束に切りて皮を煎じ飲べしといづれも手がろき事共にて、覚え居てよろしき事なれば書付る。

〔白石紳書九〕小兒のくさの薬 ちち栗を粉にして、はこべの汁に而つくる。

〔倭名類聚抄瘰三〕瘰 唐韻云瘰 昨禾反和 小瘰也、

〔箋注倭名類聚抄瘰二〕醫心方同訓、後朱雀帝患邇岐美、見榮花物語、關白師通公患邇岐美、見續世

繼波上盃卷、按今俗呼邇岐美者、面炮也、病源候論云、面炮者、謂面上有風熱氣生、炮頭如米大、亦如

穀大、白色、肘後方云、年少氣充、面生炮瘡、皆是也、不與源君所言邇岐美同、醫心方、炮亦訓爾岐美、中

略 廣韻無小字、玉篇同、說文、瘰、小腫也、按素問生氣通天論、勞汗當風、寒薄為皴、鬱乃瘰、注瘰謂色赤

臍憤、內蘊血膿、形小而大如酸棗、或如按豆、則知瘰即瘰癧、源君分瘰瘰為二、非是病源候論亦云瘰

瘰瘰結如梅李也、

〔伊呂波字類抄仁〕瘰 〇ニキミ、二 禁、小瘰也

〔年山紀聞四〕二禁

舊記に二禁といふは、何にてもすべて瘰なり、

〔碩鼠漫筆二〕あばたといふ瘰痕の名 〇中 略

古來、腫物を二禁といふ、

○按ズルニ、此說確カナラン、何トナレバ、後世ノ所謂ニキミハ、只顔面ニ生ズル小血疱ニシテ、毫モ痛痒ナキヲ、中世ノ書ニ見ユルニキミハ、其病狀甚ダ重ク、生命ニ關ハルモノ多ケレバナリ、

〔榮花物語三十六〕内 〇後の御にきみの事なをおこたらせ給はねば、いかにとむづかしう覺しめ